

幼稚園の手技と小學校の手工

藤 五 代 策

現今幼稚園で行つてゐる手技の内の、色板排べ、粘土細工、折紙、組紙、縫取、豆細工、切貫細工、等の卑近なる細工は小學校の一二學年で行つてゐる、手工と少しも變てはゐない、それで幼稚園からずつと小學校に這入つて來た兒童に向つて、夫等の手工を教ふるのは大層取扱ひに困るのであります、殊に尋常一學年の初歩に於て、幼稚園より這入つた兒童と家庭より其のまゝ這入つた兒童とが入れ混じつて居る場合には、尙更迷惑する事が多いのであります、例へば折紙細工（又疊み紙とも云ふ）で兜の折り方を教へ様とするとときに、家庭より這入つた兒童は何にも初めであるから、早く習いたい早く覺へたいと、非常な趣味と研究心を以て、歓迎して居るにも係はらず、幼稚園の兒童は先生之れは、幼稚園で習ひました、僕は幾ッ

折つてありますなどと言ひ立て、趣味も無ければ研究心も起らぬ、御茶の水小學校第二部の一學年に手工を教ふるときは、いつも此の調子で、實に閉口して居る次第であります、して又それ等の兒童が追々と上級に進みて行くに従つて、其の兩者の成績は如何にと推參して見ると、是は又驚いた、意外な成績を現はしてゐる、總じて家庭よりそのまゝ、這入つた兒童は殆んど中等以上で、幼稚園より這入た者は、多く中等以下であることを認められたのであります、して見ると手工ばかりでなく唱歌遊戯その他に於ても、幼稚園の保育法と小學校の教育法とは、何とか改善して兩者の親密なる連絡をとる必要を認むるのであります、而して此等の諸科目の内にて、最連絡ある者は手技と手工とであるから、茲に兩者の關係に付き聊か意見を述べたいと思ひます、

手技と手工との連絡に付き、大凡三つの説があり
 一、現今小學校の手工にて教へつゝある、色板排べ、粘土細工、豆細工、組紙細工、切貫細工、等



の幼稚園に關係ある細工の内より、各細工の内、
 の稍卑近なるものは、全く幼稚園に割さ興へて、
 茲に幼稚園に課する手技の細目と小學校で教ふる
 手工の細工との劃然たる範圍を定むるにあり
 と云ふ説であります、例へば粘土細工に於いて
 球、お供へ、卵等の如きものは幼稚園の細目に
 入れ小學校にては、今少し高尚にして學理に富
 める細工を課し又折紙細工にては、兜、水鳥、
 墓口等は幼稚園に譲り小學校にては折鶴、蛙、
 燕子花等のものを教授すべしと云ふ説であります、

二、幼稚園の手技と小學校の手工とは、何れの細
 工にしても其の卑近なるものは、幼稚園と小學
 校とに於て之れを教ふる上に、區別するの要は
 ない兩者共に同様のものを作らしめて可なり、
 併し兩者の取扱ひには最注意せねばならぬ即ち
 幼稚園にては常に自由製作的に課して、作らす
 るよりも、遊ばすことを主とし、小學校手工
 にては、遊ばすにあらす作らすことを主とせね
 ばならぬと云ふ説であります、

例へば幼稚園にて粘土細工を課するには、粘土
 や、細工板、篋、雑巾を興へておいて、何んで
 も作りなさいと命じて、遊びつゝ何人でも似た
 形が出来ればよい、又出来なくても、小供が怪
 我せぬ様に泣かぬ様に遊ばばよいと云ふのであ
 ります、

今前者と後者との説をきくに、勿論後者が正當で
 幼稚園の保育目的に適合して居ることは、誰人
 も判断が出来るのであります、併し只今の幼稚
 園保護の任にある人々が、皆悉く後者の説の様に
 保育して居るが否か、恐らくば小學校の一學年生
 に手工を教へる様な取扱ひと同様に教へて居はせ
 ないか、夫等の點に付いては大に熟慮を要すべき
 問題であると思ひます、殊に折紙の細工や、紐結
 びの様な細工は、その卑近なるものに至りては幼
 兒の造つたものも大人の造つたものも同じ様な成
 績が得らるゝ上に、其の製作の方法も一通りは似
 て居る、幼稚園の小供に如何に教ふるなと謂つて
 も、兜を折ることや福助を折ることは教へねば出
 来る筈がない、又此れを應用して他の者を折ると

云ふことは出来ない、それで自分の考へでは全然後者の説のみに従ふことは出来ぬ、或る細工に限つては小學校と同じ様に教へ込むべきかと思ふので、前説と後説とを折衷したる處の方法によりて幼稚園の手工と小學校の手工との連絡をとりたいと考へるのであります、

三、兩説折衷の方法案説

此の折衷案説に従ふときは、先づ小學校の手工の中の、色板排べのみは、全然幼稚園に譲りたんと云ふのであります、蓋し餘他の細工は、平面とし立体として一の纏まつた形に作らるゝけれども、此の色板排べのみは、僅に排べるばかりであるから小學校の手工としては餘り面白くない、幼稚園の棒排べ、環排へと同様に取り扱ふべきものであると考へるのであります、併し反對論者はかう云ふであらう、凡て物体は形と色とより成立してをる、色板排べはその形の基本となり色の基本となる事柄を教ふるのであるから、手工の出發點は、色板排べよりせねばならぬと云ふであらう、理論は尤千万であるが、

その基本形たる三角、四角、菱圓等のことは他の切貫細工や折紙細工、豆細工などでも教へらるゝであらう、又色に關することも、折紙細工、切貫細工、組紙細工等で教へらるゝから、是れも尋常一年生から早く教ふる必要はない、米國などでは色に關することは尋常科四學年から教へて居るではないか、斯くだ互に意見を闘はして見ると、自分も此の色板排べだけは是非小學校から取り去つて幼稚園に譲りたいのであります、

次は折紙細工のことであるが、是れは前にも述べたてかいた通り、至て平易なる折方丈は、全然幼稚園に譲つて、小學校には稍程度の高いものを課して、兩者に於て折るべきものを判然と區別しておきたいのである、その他の粘土細工、豆細工、組み紙細工、切貫兩者共同じ物を作らしめて小學校に於ては尤教育的の取扱ひを主とし、即ち手工に由つて簡易なる物品を製作し、眼と手とを練習し兼ねて勤勞の習慣を養ふ様に仕向けたい、然るに幼稚園にては何を作つても

よから、保育的に取扱かつて行きたいのである、即ち小供の身体の發達に留意して、悪い習慣のつかない様に、よく遊ばせることを主として、物を作らせたいのであります、

世話女房の覺悟

へ頁人の収入は二十圓平均

高等女學校の卒業生達は、お嫁に行くからには、赤ン坊をおん貢してお米を磨ぐと云ふ覺悟を有つて居らねばなりませぬ、何故かといへば其の婿様になるべき人は、年齢からいへば廿五歳乃至三十歳位、又職業からいへば官吏更ならば下級の判任官、軍人ならば尉官實業家ならば手代位のもので、ヤツと職業に就いたばかりのが多く、其収入は大學卒業生でも高等商工業卒業生でも士官學校卒業生でも、先づ二十圓位の所が普通でもあるからです、これだけの収入で如何して立派な生活を営むことが出来ませうか今日高等女學校の生徒達が現に住まつて居る家は既に成功して居り、又は半ば上進して居らるゝ父や兄の家であつて、何事も十分にして居る所から、解怠を生じて、己れも直にお母様やお姉様のやうな身分になりたいと云ふ様な希望を起しませうけれども、是は自己の身上に就てよく考へなければなりません。(なでしこ)

幼兒の遊戯は如何に指導すべきか(承前)

後藤ちとせ

指導遊戯

指導遊戯は談話、唱歌手技と共に保育事項中の一大要素で御座いますから其保育上の効果も心身發達兩方面に向つて大なる事は申す迄ありませんまづ身体上には血液の循環をよくし、呼吸作用を活潑にし、營養皮膚、神經の諸系統の機能をすめ、姿勢を正しく動作を輕快にし以て身体各の均一圓滿なる發達に資すると共に精神上には感官を練習し五官のはたらきを鋭敏にし注意力想像力を養ひ判斷力を練習する等心的活動を助長し更に道徳上には規律服従敏活の良性を養ひ清廉潔白衆と共に樂むの美性を養ふ等がまづ其の主要なるものです。但し例の保育者の技量如何により此の効果にも差違を生ずる事ですから如何にせば是等の價値を遺憾なく收め得らるべきか、追次御話したい